

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・自主的な生徒会活動が活発になったことや、全職員が共通理解し、組織的な生徒指導の実践、開発的な生徒指導を行ったことで、問題行動は減少したが、生徒間トラブル、不登校生徒への対応等、課題は多い。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大防止対策による行事等の削減により、昨年度は小中連携での研修が不十分であった。そのため、9年間をスパンとした学力向上に向けての具体的取組が充分だったとは言えない。また、人権教育についても小中連携、家庭や地域と連携した取組にさらに力を入れる必要があると考える。</p>
2 学校教育目標	「感謝の心を持ち、自主・自立に向かう生徒の育成」～みんなが楽しい学校に～
3 本年度の重点目標	(1)授業改善を図り、自ら学ぶ生徒の育成 (2)自分から挨拶ができる生徒の育成 (3)安心して、学び生活できる集団を作る生徒の育成 (4)ボランティア精神にあふれた生徒の育成 (5)部活動の活性化

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○指導方法の改善	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○クラスの友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した生徒60%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の推進	○学校行事、生徒会活動、係活動等に積極的に取り組んでいると答える生徒の割合を70%以上にする。 ○学校が楽しいと答える生徒の割合を80%以上にする。 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をする生徒を70%以上にする。	・定期的なGWTやエンカウンターを取り入れ、互いを認め合う授業に取り組む。 ・生徒・教師・保護者による挨拶運動を実施する。 ・ボランティア活動を活性化させる。 ・年2回のhyper-QUの実施の分析・考察を行う。 ・いじめアンケートや心の健康アンケート、日記・学活ノートを通して、早期発見や早期対応を適切に行う。 ・全ての教科や学校行事を通してキャリア教育を充実させ、夢や目標について自ら考えさせる時間や場を設ける。							
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○精神面、技術面の向上を目指した部活動指導	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上 ○県大会に出場する部活動を増やす。 ○持久力の数値を昨年度より上げる。	・「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを多くの場面で意識させ、自己の健康管理に活かせるようにする。 ・県大会を目指す機運を高める。 ・体育の授業や部活動を通して体力づくりを推進する。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○学年・学級経営の充実	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○PDCAサイクルを取り入れ、hyper-QUの結果を分析・検討して、学級経営に活かす。 ○学年の協働意識を高め、職務の効率化と生徒指導の充実を図り、時間外勤務時間を減らす。	・毎週水曜日の定時退勤日の設定。 ・週二日の部活動休業日の設定。 ・学校閉庁日(8/13～8/15、12/29～1/3)の設定。 ・週1回の学年会の中で、情報交換や協議を行い、共通理解に基づいた協働を推進する。 ・担任等が問題を一人で抱え込まないように、組織的な生徒指導を実践する。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒指導・教育相談の確立	○生徒指導の重点指導方針を活かした自己指導力の育成 ○個に応じた支援の推進	○自分のことが好きだと答える生徒の割合を70%以上にする。 ○先生に困ったことや悩みを相談できると答える生徒の割合を75%以上にする。	・生徒会と連携し、生徒の主体的な活動を位置づける。 ・学校教育目標を意識し、「みんなが楽しいとは？」ということを生徒に問いながら、全職員で、生徒同士、生徒と教師が繋がり、互いに尊重し合う態度を育成する。							
○保護者・地域に信頼される学校づくり	○学校安全管理に基づく危機管理体制の整備 ○学校公開と情報提供の推進	○災害発生時に対応できる実践的な避難訓練を定期的に行う。 ○学校教育目標の周知率を90%以上にする。 ○携帯掲示板のアクセス数を100以上に上げる。	・原子力防災、火災、地震、不審者対応等の避難訓練の実施。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえながら、保護者や地域の方が参加しやすい学校行事を工夫する。 ・適時、携帯掲示板を活用し、情報を発信する。							
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する研修会を計画的に行い、教員の専門性を向上させる。 ○ケース会議等を充実させ、支援の在り方、支援の方向性を見据えて適切に支援できる教員を増やす。	○個に応じた適切な対応ができるように、外部講師を招聘して専門的知識を習得する研修会を実施する。 ○「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」による情報共有を行い、専門機関と連携したケース会議を開くことにより、全ての教員が対応できる環境を整える。							
○教職員の資質の向上	○生徒、保護者、地域から信頼される教職員	○服務規律の厳正を図り、服務規律違反、事故等の発生をゼロにする。 ○出張、休暇、職免等の処理の適正化を図る。	・毎月1日を「服務指導ゼロの日」として、チェックリストを活用し、教職員の意識づけを図る。 ・服務に関して、職員会議等で研修を行う。 ・「信頼される教職員であるために」等の資料を用いて、全職員で研修を深める。							

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------